

# なぜ聖書預言を教えるのか 2020.01.27.

新約聖書：テサロニケ人への手紙 第一 5章 1～11節

今日の箇所は1節から11節になります。できればお立ちになって、私が読むのについて来てください。難しければ、座ったままで大丈夫です。使徒パウロはテサロニケにあるこの教会に手紙を書いています。聖霊によって、こう書かれています。1節から。「兄弟たち。その時と時期については、あなたがたに書き送る必要はありません。」(1テサロニケ 5:1)

「主の日は、盗人が夜やって来るように来ることを、あなたがた自身よく知っているからです。」(1テサロニケ 5:2)

「人々が、『平和だ、安全だ』と言っているとき…」または平和と安心。ギリシャ語では「アスファリア」。同じ言葉です。「…妊婦に産みの苦しみが臨むように、突然の破滅が彼らを襲います。それを逃れることは決してできません。」(1テサロニケ 5:3)

「しかし、兄弟たち。あなたがたは暗闇の中にいないので、その日が盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。」(1テサロニケ 5:4)

「あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもなのです。私たちは夜の者、闇の者ではありません。」(1テサロニケ 5:5)

「ですから、ほかの者たちのように眠っていないで、目を覚まし、身を慎んでいきましょう。」(1テサロニケ 5:6)

「眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うのです。」(1テサロニケ 5:7)

「しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛の胸当てを着け、救いの望みというかぶとをかぶり、身を慎んでいきましょう。」(1テサロニケ 5:8)

興味深いことに、心と意思を守ることです。

「神は、私たちが御怒りを受けるようにではなく、主イエス・キリストによる救いを得るように定めて下さったからです。」(1テサロニケ 5:9)

「主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが目を覚ましていても眠っていても、主とともに生きるようになるためです。」(1テサロニケ 5:10)

「ですからあなたがたは、現に行っている通り、互いに励まし合い、互いを高め合いなさい。」(1テサロニケ 5:11)

よろしければ、一緒に祈りましょう。愛する天のお父様。  
私たちはあなたにとっても感謝しています。今日、私たちの目の前にある

あなたの御言葉のゆえに。しかし主よ、私たちはまた、  
このことを痛感しています。聖霊によってあなただけが出来るように、あなたが私たちの  
注意を引き、  
私たちの意識を集中させてくださらなければ、私たちは、この御言葉の中で、  
あなたが今日私たちに見せたいと  
願っていることを、見逃してしまいます。だから、主よ。  
私たちはあなたに完全に意識を向けたいのです。気が散らないように。そうすれば、あな  
たの御言葉の中で、  
御言葉をとおして、  
あなたが私たちの人生に語る事が出来ますから。主よ、お願いします。あなたのしも  
べは耳を傾けます。  
主よ、お話しください。イエスの御名によって求めます。アーメン。お座りください。あ  
りがとうございました。では。私は、私がこう言うのに、  
皆さんがうんざりしないことを願いますが。しかし、今日の箇所は、かなり長い間、  
私が本当に楽しみにしていたものです。毎週、聖書のすべての箇所について  
私がこう言っているのは分かっていますが、しかし、特に今週、今日、  
私たちの前にあるこの箇所は、それによって、こう表現しても良いならば、  
今日、聖書の預言の重要性について、神が私たちの人生の中に語り、  
押し通そうとされているものだと思います。私が今日話したいのは次のとおりです。  
「なぜ、聖書の預言を教えることが最も重要なのか？」  
新しい信者にできても。私がこう言う理由はここに 있습니다。私にとって印象的であり、  
以前にも話したことですが、私にとって印象的なのは、  
パウロがこの教会にこの手紙を書くにあたって…ところで、彼が書いた最初の書簡は  
テサロニケの教会宛てでした。そして、パウロがそこに居たのは、  
たったの3週間ぐらいだと信じられています。もしかしたら、せいぜい1ヶ月？彼が町を  
追い出される前に。そして、彼がその短期間そこにいた間、パウロは彼らに聖書の預言を  
教えました。それは私に衝撃を与えました。私たちは、聖書の箇所からこれを知っていま  
す。使徒の働きに記録されているからです。そして、私たちはまた、彼が聖書の預言をそ  
の短期間のうちに、新しい教会に教えたことを知っています。新しい信者たちに。なぜな  
ら、彼は「あなたがたはすでにこれを知っている」ということから始めるからです。「あ  
なたがたは、すでにこれをよく知っている。なぜなら、私がこれをあなたがたに教えたから。」  
そして、「あなたがたがすでにこれを知っているのは、私があなたがたと一緒にいた時に、」  
「私が教会の携挙と聖書預言について教えたからです。」この人たちは、新しい信者だっ  
たんですよ！私がこれを指摘するのは、聖書預言を教えることは、イエス・キリストの福音  
において重要な役割を占めていると思うからです。実際、私はこう主張します。一番最初  
の福音の言及は、聖書の預言を通してなされた、と。創世記3章15節は、

しばしば「原福音」と呼ばれています。それは、創世記第3章15章にある福音があったということです。そこで神は、女の子孫(英語ではseed/種)が現れることを宣言します。それが処女降誕です。それが処女降誕の預言です。なぜなら、女は種を持っておらず、男にあるからです。女性は卵を持っています。女性の種が、一処女降誕、預言です。蛇の頭を踏み砕きます。蛇は彼のかかとかみつきます。

それは十字架のことです。しかし、彼は蛇の頭を踏み砕く。それが最初の言及です。聖書預言を学んでおられる方々に言いますが、それは「最初の言及」の原則です。そして、それは預言を通して来ます。それはイエス・キリストの福音です。それは聖書預言なんです。神の御言葉を教える者として、ひとつ、聖書を一書ずつ、一章ずつ、一節ずつ読んで行くと、あなたは聖書預言について話さずに、逃げることは出来ません。なぜなら、聖書のほとんど三分の一は預言だからです。だからつまり、もしあなたが聖書預言を教えることを避けていたいのなら、一どうかそんなことがありませんように！しかし、あなたは自分の聖書を取り、ページを破っていく必要があります。

それもたくさん！なぜなら、聖書の三分の一は預言だからです。私は今日の箇所です。3つの理由を見つけました。

皆さんはもっと見つけるかもしれません。しかし、私は聖書預言の重要性を語っている3つのことを見つけました。最初のものは1節から3節にあります。それは「準備をすること」です。ここでパウロは、主が戻って来られることを、夜の盗人にぞろぞろといます。はい、これは比喩表現ですが、しかし、彼は主の帰還は夜の盗人のようだと言います。人々が2つの特定の言葉を言っている間に。「平和と安全。」そして、彼らが「平和だ、安全だ」と言っている間、夜の盗人のように、突然の破滅が彼らにやって来ます。妊婦の産みの苦しみのように。そして、彼らは逃げることはできません。私たちはその箇所をよく知っていますね。ああ、ところで、今日の預言アップデートでは、今日私たちは、また、この箇所について話すこととなります。正当な理由があつてのことです。私たちが預言アップデートでこの節についてよく話しているのは分かっていますが、私たちはパウロがそれを言っている文脈を考慮するのが良いと思います。具体的には、主の帰還が私たちにとってではなく、彼らにとってどのようになるのかということです。彼らにとっては、夜中の盗人のように来るのです。これは重要であり、その理由はここにあります。盗人は、あなたに電話をしたり、ショートメッセージを送ったり、メールを送ったりして、あなたに「ねえ、私は盗みにいくよ！」とは言いません。「私は午前2時に押し入って盗みにいくつもりです。」「その時間はあなたにとって都合がいいですか？」なんて言いません。そんなことは起こりません！そんな事が決して起こらないので、あなたは常に用意していなければなりません。あなたは常に準備していなければなりません。なぜなら、いつ起こるか分からないからです！主の帰還に関しても、このことが当てはまります。彼らは準備ができていないので、彼らにとっては、それは夜の盗人のようなのです。そして、彼らは不意を突かれます。しかし、皆さんはそうではありません。私たちが今日の箇所を読んでい

て、

皆さんが気づいたかどうか分かりませんが、しかし、パウロは非常に明確に、

「彼ら」と「私たち」の間を線引きしています。「彼ら」と「あなたがた」。

あなたがたは彼らのようではないと。「あなたがたは夜の者ではない。」

「あなたがたは昼の子である。」 「...あなたがたはこれに気づいている。」

「あなたがたはこのための準備ができている。」 なぜか？

「なぜなら、私はあなたがたに

このことについて教え、話したから。」 「私はこれについて

あなたがたに手紙を書く必要さえない。」 「なぜなら、

あなたがたはすでにこれを知っているから。」 まあ、これは本当にぴったりと、

4 節から 8 節にある 2 番目のものに結びつきます。そして、それは「意識していること」

または、「目を覚ましていること」です。これは面白いです。ここでパウロは彼らに、彼

らにとっては主の帰還は驚くことにはならないと言っています。なぜなら、彼らは意識し

ているからです。彼らは目を覚ましているからです。

眠っている人たちとは違います。パウロが「死の眠り」について語るときに使う言葉とは

異なる言葉です。死にあって眠っている人。ここでは異なる単語です。彼は霊的な眠り

について話しています。霊的に眠っている人がいるという意味です。それゆえ、彼らは目

を覚ましておらず、彼らは注意を払っておらず、彼らには準備ができていません。霊的に

眠っている代わりに、テサロニケ人は目を覚まし、注意を払っていることが期待されてい

ました。私はこれについて考えていました。実際に、今朝、目覚まし時計が午前 3 時 30

分に私を起こした時… 私は目覚まし時計が嫌いです。私は天国に目覚まし時計がないこ

とをとっても感謝しています。私は土曜日の夜は、早めに寝るようにしています。日曜日の

朝に早く起きる必要があるのが分かっていますから。そして、私が準備したすべてのもの

に目を通し、状況がすごく発展している時は、確実に、預言アップデートのために 朝早く

起きなければなりません。そして、私が前日アップデートしておいたアップデートを、さ

らにアップデートします。ちなみに、今日はそういう日のひとつでした。だから、私は徐々

に静まるように、シャットダウンするように努め、早く寝たいと思っています。神の恵み

によって、私は昨夜眠りに落ちました。主よ、ありがとうございます。21 時か 21 時半

ごろに。その後、目覚まし時計が今朝 3 時 30 分に私を起こしました。さて、21 時 30 分

から 3 時 30 分の間、私が眠っている間に何が起こったのか少しも分かりません。私は何

についても全く知りませんでした。トイレに行くために起き上がった、2 回を除いては。

たった 2 回であって、それ以上ではなかった事を神に感謝します。それは今は、私たちが

話すべきでない別の問題ですが。その話を持ち出してすみません！ ああ、なんということ

… だから、その 2 回以外は、私が寝ている間に何が起きているのか私にはさっぱり分

かりません。私は防犯カメラを持っています。だから、朝、目を覚ますと、

私はカメラを見て言うことができます。「ああ、うわー!あらららら! それ全部、私が寝

ている間に起こったのですか?」そうですよ。私は何が起きているのか、全く気づきませんでした。なぜなら、私は眠っていたからです。私が何を言おうとしているか分かりますね? 霊的な意味で、クリスチャンは眠っていて、周りで起きていることに、全く気づいていないことがありますのです。そういうわけで、彼らは仰天し、茫然とし、驚くのです。やはり、毎週のようにこれを言っているのは、私も分かっていますが、しかし、これが、私たちが毎週これらの預言アップデートを行う理由です。クリスマスと復活祭の日曜日を除いて 2006 年以來続けています。それは警報を鳴らし、眠っているクリスチャンを目覚めさせるためです。悲しい事に、そういうクリスチャンがたくさんいます。時の遅さ、私たちが生きている時代の緊急性を気づかせるために。パウロはローマ人への手紙 13 章で、基本的にこう言っています。「目を覚ませ!!」私はたった今、こう言って、数人を目覚めさせましたね。「眠りから、目を覚ましなさい!」「あなたは眠っている!」「あなたは今日の世界で起きていることのすべてに何にも気づいていない。」「私たちの救いは今まで以上に近づいている!」そして、これは 2,000 年前に書かれたことです。「ねえ、牧師さん。それは 2000 年前のことですよ。」そうですよ。そう言っているんです。

それは 2,000 年前のことです。「何が言いたいのですか?」私が言っているのは、この 2,000 年間、私たちは終わりの日々で生きているという事です。過去 2,000 年間。そして、ここでパウロは、「私たちには主がいつ戻るか分からない」と言っています。面白いと思いませんか? 私たちは先週ちょっとお話ししましたが、4 章でパウロが言っています。「生き残っている私たちが、…引き上げられ、空中で主と会うのです。」(1 テサロニケ 4:17) パウロはそれが自分の生きているうちに起こると考えていたのです。「私たち…」

これはパウロが話し、書いていたことです。「生き残っている私たちが…」私たち、私たちが! 彼らはその期待を持って、生きていました。その期待とは、主はいつでも来る可能性があるということ。夜の盗人のように、私たちが予期していない時に。そして、彼らは常に準備ができていました。ところで、それは神の御計画によるものです。そうすることで、私たちがいつも見張っているように。常に準備をしているように。常に目を覚まして、常に注意しておくために。そして最後に、これが私が残りの時間を使いたい内容です。「いつも励まされる」9 節~11 節は、私にとって、患難前携拳の最も説得力のある証拠の一つです。ところで、先週ここにいなかった皆さんは、オンラインで観る事が出来ます。説教のタイトルは「携拳が 7 年間の患難の前に起こる証拠」です。証拠です。理論ではありません。これは、患難前携拳の健全な教義の証拠です。たくさんの証拠がありますが、先週の箇所では、3 つの証拠について話しました。そして、これはその中の一つです。患難前携拳の健全な教義によって、それは、私たちを高め、私たちを励ますのです。もし、携拳が 7 年の患難の前でないなら、パウロはここで、彼らや私たちに「あなたは励まされることができる、互いに励まし合いなさい」とは言いませんよね? 彼らを励ます代わりに、パウロは彼らに警告しているでしょう。「準備をしたほうがいい。」「シートベルトを締めた方がよい」「主が来るまで生き残る計画を立てたほうがよい。」違います。主は来ら

れます。そして黙示録3章のフィラデルフィア教会に、イエスは聖霊によって、ヨハネにこの教会へ手紙を書かせ、イエスが患難の時から彼らを守ると告げられます。

(黙示録3:10) 全世界に来ようとしている7年間の患難から。そして、イエスは彼らに持ちこたえるようにと励めます。「私は、あなたには少しばかりの力があることを知っている。」「しかし、持ちこたえなさい。もうそんなに長くない。」「あなたはわたしの名を守った。」「あなたはわたしの名を否まずわたしの言葉を守った。」「わたしは、全世界に来ようとしている患難の時からあなたがたを守る。」彼は何をしているんですか？イエスは彼らを励ましているのです。パウロが言っていることに注目してください。「私たちは自分が励ましを受けるだけでなく、互いに励まし合うべきだ。」と。そして、パウロは彼らを称賛し、彼らにこう言います。「あなたがたは、現に行っているとおおり、」繰り返しますが、私は何度も言っていることは分かっていますが、しかし、これは私にとって、患難前携挙の最も説得力のある証拠の一つです。私たちが励まされ、互いに励まし合えるという事実です。持ちこたえなさい、もうそれほど長くはない。私たちは、4章でこれを見ました。

パウロが手紙を書いていた時、彼はテサロニケの戦い疲れた教会に手紙を書いていた。彼らは厳しく激しい迫害を受けていたのです。彼らは質問をしていて、それはおそらく、パウロとシラスがテサロニケにテモテを送った時にテモテが持ち帰ったものです。パウロは熱望していましたが、自分で行くことができなかったからです。どうやら、彼らはテモテと一緒に言葉を送り返しました。「ねえ、使徒パウロに聞いてください。亡くなった私たちの愛する人はどうなるのですか？」だからパウロはこう言っています。

「私たちはあなたに知らずにいて欲しくはない」(1テサロニケ4:13) 他の翻訳では、より強い表現です。「死んだ人に関して無知であってほしくない。」「もし彼らがキリストにあって死んだのなら…?」なんだと思います？彼らは肉体の復活において、最初によみがえり、「それから、生きていて残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。」(1テサロニケ4:17)

励まされなさい。元気を出しなさい。それはどれほど励みになるでしょうか？特に、愛する人を失った私たちにとって。私は娘のノエルのことを考えます。私は彼女が最初によみがえり、彼女の新しい体、彼女に栄光の体が与えられるのを待ちきれません。彼女はこの地上で命を奪った病気の体を脱ぎ捨てます。しかし、彼女は最初によみがえり、彼女の新しい体が与えられるのです！そして、私は空中で、再び彼女に会えるのです。待ちきれません！それは本当に私を励まします。それは本当に私を慰めます。私の母も、同じです。1995年、彼女は私の腕の中で死に、それは本当に強烈でした。私にはこういうふうになることが必要だと主が知っていたようでした。彼女は昏睡状態にあり、私は彼女の手を握っていて、私は詩篇を読んでいました。そして突然、機械が「ピー、ピー…」私はその音が嫌いです。突然、それは「ピーー」と。(まっすぐに)そして、彼女の手が上がり、そして、彼女の目が開いたのです。まるで主の臨在の中へと導かれるかのように。

彼女の霊が。彼女の体ではありません。「肉体を離れて、主のみもとにいる」のです。

(2 コリント 5:8)

1995年でした。今は、2020年です。誰が考えた(thunk)でしょうか!? "thunk"という言葉がないのは分かってます。私にメールを送らないでください。誰が想像したでしょうか? 2020... そして、私の母が新しい体を得ることは、私にとって、とても励みになります。私は、父もそうだと願っています。私は確実には分かりません。1994年でした。それから私が思うのは... そして、許していただきたいのは、私はここで感情に訴えかけたいわけではないのですが... 私はこの貴重で素晴らしい教会の交わりに属していた人たちで、主のみもとにいるために、家に帰った(召天した)人たちのことを思います。そして、私たちは彼らにも、また会うのです。彼らが最初によみがえります。それはどれほど励みになるでしょうか? あなたは今日ここにいるか、もしくはオンラインで見ているかもしれません。そして、非常に、非常に困難な試練を経験しているかもしれません。非常に痛みを伴う試練を。そして、それはあなたにとって非常に強烈なので、あなたがこう考えるような日があります。「私は絶対にこれを乗り越えられない。」「私がこの向こう側に喜びを知ることには絶対にない。」私が学んでいることの一つは 敵は常にそれが、実際よりも悪いようにあなたに確信させようとします。もしくは、それが実際よりも長く続くかのように思わせる。あなたはそれを乗り越えます。なぜなら、神があなたを乗り越えさせるから。「ええ、しかし、牧師さん。これは本当に辛いのです。」「これは本当に苦痛です。これは本当に難しいのです。」「どうやって乗り越えられるのか分かりません。」あなたは乗り越えます。今にわかります。あなたはただ、主を待ち望むのです。私は詩篇 27 篇 13、14 節のことを考えます。ダビデが情熱的に、イスラエルの甘美な詩人として、書いています。彼は、もう少しで心が折れそうだったと書いています。彼はほとんどあきらめていた。彼はもう降伏しそうでした。「私はこれを乗り越えられない!」そして、彼は言います。「主における私の確信がなかったなら、私は心が折れていただろう。」「私は主を待ち望む。雄々しくあれ、心を強くせよ。待ち望め 主を。」「なぜなら、私は生きている地で、主のいつくしみを見るから。」彼が何を言っているか分かりますか? 「この地上で、私は神のいつくしみを見る。これがどれほど辛いことであっても。」つまり、それは悪いことですよ。しかし神は、彼だけが出来るやり方で、どんな悪いことでも、それを善のために使うことが出来るのです。彼だけがそれを行うことができます。あなたはそれを乗り越えるでしょう。あなたは励まされます。勇気を出してください。心を強くして、主を待つのです。イエスがヨハネの福音書 16 章 33 節で言っておられることについて考えます。ヨハネの福音書の中で私のお気に入りの節の一つです。ほかのすべての節も好きですが、こう書いてあります。「世にあっては、苦難があります。」ああ、私は彼がそのように言わなければ良かったのに、と思います。彼がこんな風に言ってくればよかったのに。「この世では、おそろく、もしかしたら、いくつかの困難があるかもしれない。」その方がはるかに良いです。はるかにもっともらしく、受け入れやすいです。いいえ、彼はそう言いませんでした。彼

は「苦難がある」と言います。保証つきです。「あなたは苦難、試練、困難、痛み、悲しみ、嘆きを経験する。」「しかし…!」「勇気を出しなさい。」「励まされて。」なぜでしょうか。なぜなら…「わたしはすでに世に勝ったのです。」終わりに、私が話していることが何も聞こえていなかったとしても、今日これを聞いてください。それがどれほど悪いことだったとしても、神がいつも、良い方であるということは、決して変わりません。彼は善をもたらしめます。そして最終的には、最後には… おお…! この世の苦しみは待ちうけている栄光と比較される価値さえありません。想像できますか? それは計り知れない。パウロは苦悩し、実質的にこう言いました。「待ち受けていることは、説明しようとする事さえ、犯罪になる。」待ち受けている栄光! 黙示録で垣間見ることができます。もはや悲しみはありません。もはや死はありません。それだけでも! もはや夜はありません。もう痛みはありません。私は慢性的で一貫した痛み、衰弱させる痛みをもって毎日生きている人たちのことを思います。天国では? もう痛みはありません。ゴキブリもいませんよ。ちょっと言ってみたかったんです。もしかしたら、いるかもしれませんが、彼らも栄光の姿になっているでしょう。とにかく、なぜ私はこれを持ち出したか分かりませんが。私たちはいつも、天国に着いたら、神に聞きたいことがあると言いますね。私は神のもとへ行き、「なぜ蚊を造ったのですか?」と聞きたい。どうでしょう。励ましを得てください。それほど長くはありません。待つのです。主は来られます。祈りましょう。天のお父様、ありがとうございます。主よ、私はこの真理に感謝します。この約束、このことばに。そして、主よ、私はお祈りします。今日ここにいる方で、本当に苦勞し、困難な時期を経験している方がいたら、あなたが、良い知らせで彼らの心を強め、励まして下さい。福音によって。それは、あなたが一回目に来られ、あなたが十字架につけられ、埋葬され、そして、死からよみがえり、そして、あなたが再び戻ってくる。もうすぐに、非常にすぐに。だから、主よ、感謝します。早く来てください。イエスの御名によって、アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 JB